

横浜市 歴史博物館 NEWS 39 2015・9

◇特集 (公財)横浜市ふるさと歴史財団

8施設連携展示「ヨコハマ3万年の交流」展

体験プログラム実施レポート 夏休み子ども記者体験

展示紹介

展示解説ボランティア 初登場!

五味理事長特別講演会「交流する横浜—日本史の中の横浜」

◇横浜さいかちの会10周年

◇企画展「すくすく育てみんなの願い—出産と育児をめぐるモノがたり」によせて

◇企画展「横浜発掘物語2015」を振り返って

◇あじろ編みワークショップ

◇企画展「古代の仏教」を振り返って

◇〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉横浜市でここだけ!大人気の焼き菓子

◇〈知ってますか?〉遺跡公園で現代アート展



ヨコハマ三万年の交流展・体験・プログラム実施レポート 夏休み子ども記者体験

横浜市の歴史博物館を管理・運営している団体である（公財）横浜市ふるさと歴史財団は歴史博物館の他、横浜開港資料館・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館・横浜市三軒台考古館・埋蔵文化財センター・横浜市八景郷土資料館・横浜歴史資料室の八施設を運営しています。「わがまち横浜再発見 ヨコハマ三万年の交流」展は、「交流の場」をテーマにこの八施設



参加してくれた児童のみなさん

設が連携して、全体でひとつの展示をつくりながらも、各施設の展示はそれぞれ独立した展示としても成立させ、お好きなどころからご覧いただけるという両立の難しいコンセプトを実現させた、力の入った展示です。

財団の総力を挙げたこの展示を、ぜひ子どもたちにも体験してほしいと考え、横浜市歴史博物館・横浜開港資料館・横浜都市発展記念館で「夏休み子ども記者体験」という共通のタイトルを冠した三種類の小学生向けの事業を実施しました。

一つ目は、展示がオープンして間もない七月二三日～二五日に実施した「夏休み子ども記者 横浜の歴史“新”発見」これが特別展だ！見どころ満載壁新聞」展示のタイトルは「わがまち横浜再発見」ですが、子どもたちには歴史を知ることが新鮮な体験であってほしいということから、敢えて「新」発見と名付けました。

これは神奈川新聞社の全面協力のもと、実際に新聞記者の方を招き、壁新聞製作を指導していただいたものです。小学校の児童四六人で構成された五つのチーム（歴史博物館に二チーム・開港資料館に二チーム・都市発展記念館に一チーム）が二日ばかりで展示を見たり学芸員に質問したりして「取材」し、横浜の歴史をテーマとした壁新聞を作りました。三日目には歴史博物館で発表会と表彰式が

行われました。この模様は、八月一九日の神奈川新聞紙上で二面を使って大きく採録されました。

五つのチームの中には、お互いの通う学校が違い、当初初めて顔を合わせた混合チームや、六年生が多数を占める中で四年生だけのチームがあるなど、多彩なメンバー構成となりましたが、そのどれもが個性的な素晴らしい壁新聞を作り上げてくれました。作品は、歴史博物館に展示されています。

二つ目は、七月一八日～八月二三日に行われた「夏休み子ども記者体験」。これは予約なしでいつでも誰でも参加できることをコンセプトにしたプログラムです。来館した児童がその場で壁新聞を作れるよう、紙や鉛筆などをセットにしたものを配り、展示室で気に入った資料の絵を描いて、それについての記事をつけてもらうというものです。予想以上の反響があり、最初に用意した壁新聞づくりのセットがあっという間に底をつき、急いで追加製作をしたこともありました。完成した壁新聞は、夏休みの自由研究として学校に提出することができ、さらに校内展示が終わった後に学校から歴史博物館に送っていただけたものは、一〇月一〇日より館内で展示します。

三つめは、八月二〇日に都市発展記念館・二日に開港資料館・二三日に歴史博

物館で実施した「夏休み子ども記者体験・公開ワークショップ」。神奈川新聞社の記者の方が壁新聞の作り方を指導してくださった点の一つ目のプログラムと同じですが、こちらはチームではなく一人で作ることと、一日だけの体験というところが異なります。多数の応募をいただき、各回とも高い倍率の抽選となりました。

壁新聞作成にあたっては、資料の絵を描いてもらう方法をとりました。今回の展示は他機関からの借用資料が多く、企画展示室内では写真撮影ができないことから考えたものではありましたが、結果的にこの方が資料をよく観察してもらうことができ、教育効果も高まったのではないかと思います。（可知博道）



資料の絵を描く児童

ヨコハマ三万年の交流展 展示紹介



①縄文・弥生・古墳時代の“顔”手前：人面把手(神奈川県立歴史博物館所蔵)
②3万年前の石器 ③縄文時代の木道

七つの会場で開催している「わがまち横浜再発見 ヨコハマ三万年の交流展」。ここでは各会場をご紹介します。前号で詳しくご紹介した歴史博物館の「横浜のあゆみ―ヒト・モノ・マチ」では、展示室に入る前から四〇〇〇年前の木道が目を見えます。縄文人がこの上を歩いた実物が目の前にあることに、奇跡を思わざるを得ません。展示室に入るとすぐに、三つの顔が迎えてくれます。それぞれ縄文・弥生・古墳時代に作られた顔を見つけていると、何かを語りかけてくるようです。そして、展示ケースに目を移すと、最初にあるのは三万年前の石器。この石器で、当時の人はどんなことをしたのでしょうか――。展示室に入ってから横浜

の歴史に魅了されるまでに必要な距離は、たった一步。メイン会場を名乗るにふさわしい展示となっています。

横浜開港資料館の展示は「ハマを駆ける―クルマが広げた人の交流「明治・大正編」」、横浜都市発展記念館では同「昭和編」。日本大通り駅に近いこの二館は歩いて三分ほどの距離にあり、合わせて見ると面白さが倍増します。

「明治・大正編」は、馬車・人力車・自転車・荷車・自動車などが描かれた浮世絵や絵はがきが目を惹く、カラフルな展示となっています。現代よりも多種多様な「クルマ」が走る横浜の街の風景を眺めるだけでも楽しく、また、いろいろな切り口で「クルマ」の移り変わりを展観することができます。



都市発展記念館「ハマを駆ける【昭和編】」

「昭和編」は自動車に焦点を当て、関東大震災後に急速に普及する自動車と、道路網の整備やマイカーの普及、それにもなう事故や渋滞の出現など、社会構造の変化にも切り込んだ「社会派」な構成でありつつ、スバル三六〇、ダットサンなど、昭和を知るクルマ好きには懐かしさを感じられる要素がたっぷり散りばめられた展示でもあります。

栄区野七里にある埋蔵文化財センターの展示は「よみがえる中世称名寺―「赤橋」の橋脚―」。金沢区の称名寺の苑池において、発掘調査で見つかった鎌倉時代の橋脚の一部が展示されています。展示された橋脚の背景には壁一面に引き延ばされた現在の称名寺の写真が飾られ、「赤橋」の往時の姿が想像されます。

磯子区岡村にある横浜市三殿台考古館の「弥生トレード―横浜の遺跡から見る弥生時代の交流・交易―」では、横浜で出土した弥生時代の石斧や玉類・ガラス玉、金属製の腕輪や剣などが広い範囲で流通し、人々が活発に交流していたことがよくわかります。

中区本牧元町の横浜市八聖郷郷土資料館での展示は「絹の道―原三溪と富岡製糸場」。展示の規模としては小さいパネル展ですが、富岡製糸場など生糸の生産地と横浜との交流を紹介しています。横浜市史資料室は、横浜市中心図書館

の地下一階にあります。ここで開催されている「戦後七〇年 戦争を知る、伝える―横浜の戦争と戦後」という展示が三部構成になっており、その第三部「戦争と戦後をめぐる日本とアメリカ」がこの「ヨコハマ三万年の交流」展とリンクしているという珍しい構造になっています。初公開資料を含む見応えのある展示です。必ずしも交通便利とは言えないところに立地する施設もありますが、この機会に全館制覇を目指して市内を巡ってみてはいかがでしょうか。(可知博道)



埋文センター「赤橋」の橋脚

展示解説 ボランティア 初登場！



ボランティアガイド活動の様子

夏休みが終わると時を同じくして四〇点以上の資料が入れ替わり、八月二五日から「横浜のあゆみ―ヒト・モノ・マチ」は後期展示になりました。歴史博物館で目を惹くのは、称名寺と真福寺の木造釈迦如来立像(ともに重要文化財)です。二体が同時に展示されるのは大変めずらしいことです。また、展示室内に華やかな彩りを添えている東海道の浮世絵たちもすべて入れ替わりました。

そして、同じく八月二五日から登場したのが、企画展示室の解説ボランティアです。以前より歴史博物館ではガイドボランティアの方々が活躍していますが、活動の範囲は野外施設の大塚・歳勝土遺跡公園でした。今回は大塚・歳勝土遺跡公園のガイド経験者の中から選抜され、前期展示の間に研修を積んだ三三名のボランティアの皆さんが、初めて展示室内のガイドに挑戦しています。この試みで得られた成果は、現在導入に向けて検討を重ねている常設展示室のガイドを実施する際にフィードバックされることになり、今後の博物館の活動を展開させる上で重要な意味も持っています。(可知博道)

五味理事長特別講演会 「交流する横浜―日本史の中の横浜」



理事長講演会

「ヨコハマ三万年の交流」展のオープンの当日の七月一八日、展示のスタートを飾る特別講演会が中区の情文ホールで開催されました。講師は当財団理事長の五味文彦。二三〇席の会場でしたが、募集枠はすぐに埋まり抽選となりました。日本史の中で横浜がどういう位置づけにあるかを考えるにあたり、日本史の流れを改めてとらえ直すために、およそ百年単位で区切った独自の年表を用いて、時代ごとのものの見方の変化を文学作品からの引用など多彩なトピックを交えて追っていく、新感覚の通史解説とも言える内容で、客席からはしばしば笑いが起きる楽しい講演会となりました。(可知博道)

横浜さいかちの会十周年

横浜さいかちの会は、大塚・歳勝土遺跡のガイドボランティアのOB会で、当館のサポート団体として多彩な活動が続けています。同会が、七月三〇日をもって創立十周年を迎えることになりました。心から祝福を申し上げます。この十周年を記念して、同会から当館へ図書『弥生時代の考古学』全九巻が寄贈されました。この図書は、弥生時代の遺跡を長年解説された同会の会員ならではのものです。市民はもちろん当館の職員も長く活用させていただきます。ありがとうございます。(井上 攻)



図書は翠政之会長から鈴木靖民館長に贈呈されました。

企画展

「すくすく育てみんなの願い」

― 出産と育児をめぐるモノがたり ―

横浜市歴史博物館ではこの秋、一〇月一〇日から十一月二三日の会期で出産や育児（産育）をテーマに、少し風変わりな展覧会を開催いたします。

少子化や待機児童の問題などはもとより、出産や育児、子どもにかかわるさまざまなニュースがかけめぐる現代です。それらは、日本全体にとっても横浜市にとっても、あるいは地域にとっても個々の家庭にとっても大きな関心事でもあり悩みの種でもあります。

歴史と産育と、普段はあまり関わりのない様に見えるふたつの事柄ですが、本展覧会では、昔を振り返って見たときにかつては産育の場面でどんなことに人々は悩み、考え、そしてどう行動してきたの



志村家のおしゃもじさま（青葉区鉄町）

か、ということを見ていこうと思います。

もちろん、尽きない産育の悩みの全てを紹介することはできませんが、我が子を想う人々の気持ちや、さまざまなモノを通してお伝えできればと考えています。

たとえば、今では四種混合ワクチンの接種によって、実際に罹患する子どもは少なくなつた「百日咳」という病気ですが、病原菌が見つかったのは一九〇六年、日本でワクチン接種がおこなわれるようになったのは戦後の一九五〇年になってからのことです。ひとたびこの病気になるかと、百日咳も特有の咳が続くことから、その名が付いたと言われていますが、乳幼児がかかり重症化すると、命を落とすこともありました。

もしも、幼い我が子が百日咳にかかったら、医者も薬も身近にない時代に於いて人々はどのような行動をとったのでしょうか？

そのこたえのひとつに、本展覧会でご紹介する「おしゃもじさま」があります。この変わった名前の祠は、百日咳除けとしてひろく人々から信仰されてきました。

もし子どもが百日咳にかかったら、奉納してあるしゃもじを借りてきて、そのしゃもじでご飯をよそって食べさせると子どもの咳が治るといわれてきました。そして治ったお礼に借りてきたしゃもじ

に新しいものを加えてお返しするのです。こうして、人々から厚く信仰されたおしゃもじさまには、多くのしゃもじが奉納されたのです。

しかし、現在では四種混合ワクチンの接種により、この病気の名前を日本のニュースで聞くこともなくなりました。そして、このおしゃもじさまもその由来やご利益はもとより、その存在も少しずつ人々の記憶から薄れつつあります。

また、おしゃもじさまと並んでもう一つ、ご紹介したいものに「まわり地藏」があります。こちらは、子授けや子育て、延命にご利益があるとされるお地藏さんで、その特徴は、厨子という小さな木箱に収められたお地藏様を背負い、一軒また一軒と各家庭でまわり、まわし伝えていくというものです。送り届けられたお地藏さんは各家庭でおまつりし、特に子どもがいる家庭などでは健やかな成長を祈願し、数日滞在した後にもまた次の家へと送るのです。現在、横浜市指定無形民俗文化財として指定されていますが、想像などに書かれた文字からは、江戸期まで遡ることができる風習です。かつては市域のあちこちで行われたようですが、現在では指定文化財として確認されているものとしては五カ所になります。

本展覧会ではこうした横浜市内につわる出産や育児に関わる人々の信仰につ

いて、かつての社会的な背景をふまえて、昔懐かしい育児の道具や当時の情報誌などとともにご紹介いたします。現在、子育て・孫育て中の方々はもちろんですが、多くの方々に足を運んでいただければ幸いです。（羽毛田智幸）



わかりやすくご紹介した絵本「よこはまのおしゃもじさま」と「よこはまのまわりじぞう」各850円、2冊セット1,600円（税込）

企画展

「横浜発掘物語二〇一五」を振り返って

二〇一五年四月四日から五月二四日まで、のあいだ、企画展示「横浜発掘物語二〇一五」を開催しました。今回の企画展示は、考古学や発掘調査を知る入門展示という位置づけです。横浜市内の旧石器時代から近代までの考古資料を展示するとともに、市内の史跡の紹介などを行いました。「本物をさわってみよう！」と題して、これまで展示ケースの外から見ることでしかできなかった土器や石器を、直接さわってその感触を確かめることができるコーナーを用意しました。来館者であれば誰でもさわることができるのですが、土器や石器はかけがえのない貴重な文化財ですので、事前に係員から観察の仕方の説明をさせていただくことで、安全に楽しく体験していただけるように心がけました。土器や石器をさわるのは初めてという人が多く、子どもたちはもとより、一緒に来館した保護者などの大人も、目を輝かせながら手に取り、土器の文様や石器の感触などを確かめていた姿が印象的でした。



大昔を書いちゃった!! の様子

の作品が集まりました。応募作品は、書家の小熊廣美先生、五味理事長、鈴木館長、担当学芸員の四名で厳正な審査を行いました。素晴らしい作品ばかりで審査には大変苦労しましたが、大賞以下二六作品を選ばせていただき、四月二五日に博物館のエントランスホールで表彰式を盛大に行いました。作品は全て展示し、また脇に設置したケースには、課題にした資料と、墨書土器や硯といった書道に関係した考古資料を展示し、書道展を目的とした来館者にも興味を持ってもらえるように努めました。

土、日、祝日は関連行事として色々な体験学習メニューを用意しました。博物館入口ではマイグリ式で行う火起こしを企画し、参加者は、摩擦熱を利用した火起こしの面白さを体感していました。企画展示室では週に一度、土器の重さ当てクイズを行いました。縄文時代と弥生時代の、ほぼ完全な形で残った本物の土器を持ち上げて、その重さを当てるクイズです。日頃重さを測ることが無い現代人にはとても難しかったようですが、数千年前の人が作った土器の重さを感じるといって、普段はできない体験を楽しんでいました。五月五日には大塚・歳勝土遺跡公園内で「大塚遺跡まつり」を開催し、弓矢打ちやドングリすりつぶしなどの体験を行いました。同時にスタンプラリーを開催し、スタンプを集めた人に企画展示の招待券をプレゼントしました。大人向けの体験学習として、お菓子作り考古学者のヤマラさんを講師にお招きした、一部で話題沸騰中のドッキー（土器片形クッキー）を作るワークショップを開催し、好評の内に終了しました。

来年の春も考古学を楽しく学べる入門展示を行う予定です。よろしくお願いいたします。

(橋口豊)



①土器の重さ当てクイズ
②大塚遺跡まつり

あじろ編みワークショップ

二〇一五年一月の博物館感謝デーに引き続き、八月二日(日)・七日(金)・十三日(日)の三日間、あじろ編みワークショップを開催しました。縄文時代から植物繊維を編んでつくった籠(かご)が使われていますが、このワークショップでは紙バンドを材料に「あじろ編み」という編み方で小物入れをつくります。前回同様、子どもたちの指導にあたったのは、博物館で活動しているボランティア「横浜歴史博りあげ隊」の皆さんです。

このワークショップでは底部が製作済みのキットを使いますが、実際にあじろ編みで紙バンドを編んだり、細ひもをかけたりのしていくのは結構大変で、大人でも間違えることがあるほどです。それでも、「横浜歴史博りあげ隊」の皆さんのいい指導のおかげで、参加者は縄文時代の小物入れを完成させていきました。

「横浜歴史博りあげ隊」のコロナボランティアで行なったあじろ編みワークショップ。子どもたちは完成した小物入れを持ってうれしそうに笑っていました。

(刈田均)



企画展

「古代の仏教」を振り返って

企画展「古代の仏教」(6/6〜7/5)

は、当初は収蔵資料展として計画しました。紺紙金字法華經(横浜市指定文化財・保土ヶ谷区法性寺寄託)や当館所蔵の法隆寺百万塔・陀羅尼を中心として、古代の仏教にかかわる収蔵展を考えたのです

を対比することが可能となり、観音や地藏などの菩薩に対して現世や来世の願いをかける信仰や、浄土思想、地獄へのおそれなど、日本仏教にみられるさまざまな要素が、中国の仏教に由来することを浮き彫りにすることができました。

前後半で展示箇所の巻き替えを行うとともに、光量を可能な限り抑えることとしました。全体的に展示室が暗めとなり、来館者の皆様にはご不便をおかけした面もありましたが、資料保護と展示のバランスに苦慮した結果とご理解いただければ幸いです。

“The Thousand Buddhas”は今から九

展覧会は当館とユーラシア文化館、埋

〇年以上昔の本ですが、収録された写真

蔵文化財センターの共催で、それぞれの

図版の色彩は今でも鮮やかです。これを

所蔵・寄託資料によって、日本列島への仏

どうすればより見やすく来館者の方にこ

教の伝来から定着までの歴史を構成しま

覧いただくことができるか苦心しまし

した。横浜市都筑区の二つの遺跡、薮根不

動原遺跡と権田原遺跡から発見された奈

良・平安時代のムラの仏堂を取り上げる

は上からのぞきこむことができません。

ことにより、横浜市民の方にも古代の仏

ブックマットと呼ばれるマットに挟み、

教信仰をより身近に感じていただけたの

垂直近くまで立てることを考えたので

ではないでしょうか。港北区綱島のお寺

が、マット内で資料を安全に固定する方

に祀られていた十王像・尊衣婆像(飯田助

法がみつからず、断念しました。結局傾斜

知氏寄託)も、多くの来場者の方にとって

のついた展示台に載せることにより、資

料の安定と見やすさの両立をはかったの

ですが、それでも細部が見えないとい

る閻魔王をはじめとする十王の信仰が、

ご指摘が多く、会期中からではありま

したが、印刷した写真版を図書室に備え

てご覧いただけるようにしました。

と思っています。

褪せしやすい印刷物である“The

Thousand Buddhas”と同様に、紺紙金字

法華經の展示にあたっては光量に気を遣

が、講演会・研究講座・フロアレクチャー

いました。金銀泥で描かれた華麗な見返

し絵はこの資料の見どころですが、同じ

箇所を開き続けると、やはり光による影

響は避けられません。そこで今回は会期

響は避けられません。そこで今回は会期

心より御礼申し上げます。(柳沼千枝)

心より御礼申し上げます。(柳沼千枝)

心より御礼申し上げます。(柳沼千枝)



フロアレクチャーの様子

ちょいと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time

横浜市でこだけ!

大人気の焼き菓子

横浜市歴史博物館の焼き菓子をご紹介します。

ミュージアムショップが自信をもっておすすめる、こでしか手に入らない珍しいお菓子二種です。

お子様のおやつに、おみやげに、いかがでしょうか。

●縄文クッキー「縄文の匠」

くるみ、栗、松の実、どんぐり、りんご等の素朴な材料を使用し、発酵バターとともに焼き上げた人気のクッキーです。自然豊かな青森からの直送品です。

どの年代の方々にも大好評で、リピーターも後を立ちません。
価格は、一枚一四〇円、三枚入四二〇円です。

●はにわサブレ

愛らしいはにわの形のユニークなお菓子。お子様に人気のサブレです。アーモンドとバターをたっぷり使い、香り高く焼きあげています。サクサクした食感と、良質のバターの香りがあどを引くおいしさです。

価格は、一枚九二円、三枚入二七八円、七枚入(箱入り)六九九円です。



▲縄文クッキー (縄文の匠)

▲はにわサブレ

??????? 知ってますか ????????

遺跡公園で現代アート展

毎年秋、大塚・歳勝土遺跡公園を中心に現代アート展が開かれます。横浜開港150周年記念の平成21年(2009)から始まり、今年で7年目になります。現在、開催主体は、NPO法人都筑民家園管理運営委員会と都筑アートプロジェクトの2つがあり、ともに横浜市地域文化サポート事業(ヨコハマアートサイト)の助成を受け活動しています。当館は当初からこの展覧会に主催や共催という立場で参画してきました。



アート月間2015 中川中学校・中川西中学校美術部ワークショップ(工房)

この展覧会の目的は、アートの魅力を通じて、遺跡公園の存在を広く市民の方々に知っていただくことです。現代アートと原始文化のコラボレーションにより、遺跡がより一層の存在感を放ち、従来歴史や文化財に関心のなかった方に、この分野の価値を見だしていただきたいと考えています。今年も、アートの作品展示をはじめ、ワークショップ、音楽ライブなど、多彩なメニューを用意し皆さまをお待ちしています。気軽にお立ち寄りください。

(井上 攻)

これからの催しもの

◎10月10日(土)～11月23日(月・祝)

企画展「すくすく育てみんなの願い

―出産と育児をめぐるモノがたり―」

◎12月5日(土)～2016年1月11日(月・祝)

横浜の遺跡展・文化財展

◎1月30日(土)～3月21日(月・祝)

企画展「称名寺貝塚とその時代」(仮称)

表紙写真は

5頁で紹介した青葉区鉄町のおしゃもじさまに奉納されたしゃもじの一部です。奉納者の名前や祈願内容など書かれる内容はさまざまです。

横浜市歴史博物館 日誌

二〇一五年四月一日～二〇一五年八月三十一日

- 4月4日 企画展「横浜発掘物語2015―君も今日から考古学者―」(5月24日まで)
企画展関連講座「大昔を思い起こそう」(5月31日まで)
企画展関連「親子向け展示解説」
- 4月11日 企画展関連「親子向け展示解説」
- 4月12日 企画展関連「土器の重さ当てクイズ」
- 4月18日 企画展関連「親子向け展示解説」/企画展関連「火起こし体験」
- 4月19日 企画展関連「土器の重さ当てクイズ」
体験学習「小さな発掘体験」
- 4月25日 企画展関連「親子向け展示解説」/企画展関連「火起こし体験」
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説(原始Ⅰ)」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ! 紙芝居」
- 4月26日 企画展関連「土器の重さ当てクイズ」
- 5月2日 企画展関連「親子向け展示解説」
- 5月3日 企画展関連「親子向け展示解説」
- 5月4日 企画展関連「親子向け展示解説」
- 5月5日 企画展関連「親子向け展示解説」/大塚遺跡まつり
- 5月6日 企画展関連「親子向け展示解説」
- 5月9日 企画展関連「親子向け展示解説」/企画展関連「火起こし体験」
- 5月10日 企画展関連「土器の重さ当てクイズ」
- 5月13日 ふるさと横浜探検「横浜もののはじめと近代遺跡」
- 5月16日 企画展関連「親子向け展示解説」/企画展関連「火起こし体験」
- 5月17日 企画展関連「土器の重さ当てクイズ」/企画展関連ワークショップ「ドッキ―を作ろう」
- 5月23日 企画展関連「親子向け展示解説」/企画展関連「火起こし体験」
- 5月24日 企画展関連「土器の重さ当てクイズ」
- 5月30日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説(原始Ⅱ)」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ! 紙芝居」
開港記念日につき全館無料
- 6月1日 企画展「古代の仏教―博物館収蔵資料を中心に―」(7月5日まで)
- 6月6日 企画展関連研究講座第1回「ムラの仏堂―古代の人々の祈り―」
体験学習「小田原燈籠」
- 6月14日 企画展関連フロアレクチャー
体験学習「小田原燈籠」
- 6月20日 企画展関連研究講座第2回「仏教美術に見るユーラシアの広がり」
- 6月27日 大人の体験講座「おじいちゃんにバグをつくろう」
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説(古代Ⅰ)」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ! 紙芝居」
- 6月28日 企画展関連研究講座「仏法の伝来と土着―除災招福と神仏関係を中心に―」
- 7月3日 体験学習室ミニ展示「ちよっと昔をたのしもう」(9月17日まで)
- 7月4日 企画展関連フロアレクチャー
- 7月11日 収蔵資料ミニ展示「海の日企画」横浜の貝塚出土資料(7月20日まで)
- 7月12日 第28回エントランスホールコンサート「(琴のうた)ハープ、ギター、歌で響く名曲」
- 7月18日 特別展「わがまち横浜再発見」ヨコハマ3万の交流、横浜のあゆみ―ヒト・モノ・マチ(9月23日まで)
整穴住居に泊まるう!
- 7月20日 収蔵資料ミニ展示開設
- 7月24日 特別展関連連続講座「旧石器から縄文へ―横浜3万年の始まり―」
- 7月25日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説(中世Ⅰ)」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ! 紙芝居」
- 7月26日 特別展関連展示解説「原始」/体験学習「横浜の土偶」
- 7月29日 体験学習「横浜の土偶」
- 7月31日 特別展関連連続講座「縄文時代ヨコハマの道―三連断―」
体験学習「染めもの(万祝染)」
- 8月1日 特別展関連展示解説「古代・中世」/体験学習「染めもの(万祝染)」
- 8月2日 博物館たんけん隊(博物館裏側ガイドツアー)
- 8月5日 体験学習「竹の風車」
- 8月7日 特別展関連連続講座「弥生時代の交流、交易―横浜市出土遺物から―」
- 8月9日 収蔵資料ミニ展示「大塚遺跡の出土資料」(8月16日まで)
- 8月9日 街頭文化祭「チボリ兄弟舎紙芝居」
- 8月9日 博物館たんけん隊(博物館裏側ガイドツアー)／街頭文化祭「チボリ兄弟舎紙芝居」
- 8月12日 体験学習「縄文ボッシュ」
- 8月14日 特別展関連連続講座「古代の水上交通と東国」
- 8月15日 特別展関連展示解説「近世」
- 8月16日 収蔵資料ミニ展示解説／博物館たんけん隊(博物館裏側ガイドツアー)
体験学習「縄文ボッシュ」
- 8月20日 体験学習「勾玉」
- 8月21日 特別展関連連続講座「中世の関をめぐると人物の移動」/体験学習「勾玉」
- 8月22日 特別展関連展示解説「近代・古地図」
「横浜の土偶」野焼き
- 8月23日 博物館たんけん隊(博物館裏側ガイドツアー)
- 8月28日 特別展関連連続講座「近世東海道の景観と宿場」
- 8月29日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説(近世Ⅰ)」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ! 紙芝居」

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「濱ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」
「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
〔「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分〕



駐車場あり(1時間200円)

●インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

Twitter @yokorekihaku

編集後記

今夏、財団の管理運営する施設八館の連携展示も九月二三日までと残りわずかになりました。三万年にも及ぶ横浜の交流の歴史を紹介していますがその中で皆さまの心に残った物語・事柄はありましたでしょうか。

さて、今回の企画展示は「一〇月一〇日から」すくすく育てみんなの願い―出産と育児をめぐるモノがたり―を開催いたします。ぜひお越しください。

